

概要

整形外科の受け持ち範囲は運動器全般と幅広く、脊椎脊髄などの神経組織もその範囲に含まれます。

当院の整形外科は年間1200件近くの手術を行っており、脊椎脊髄手術800件、膝関節手術200件を中心に、その他の関節手術や骨折手術など幅広く行っています。

高齢化社会の到来とともに運動器の加齢性疾患は増加の一途を辿っており、今後さらに整形外科の患者は増加していくと予想されます。

こうした社会背景から、運動器疾患を診断治療することの重要性は高まっており、本研修では外来診療や手術診療や手術治療に参加して頂き、必要な技能の修得を行うことを目的とします。

I.実習到達目標

【一般目標 GIO】

(1) 中国地方第一位の手術件数を行っており、特に顕微鏡視下脊椎脊髄手術に特化した当院の脊椎脊髄疾患診療を理解して頂くこと。

(2) 高齢者の関節疾患としては腰椎と並んでも最も高頻度な膝関節疾患の診療を理解して頂くこと。

(3) 骨折などの外傷に対する診断やギプスなどの保存治療、手術的治療を理解して頂くこと。

(4) 高齢者が多いことから合併症に対する対応、注意点などを理解して頂くこと。

(5) 運動器疾患では術後リハビリが重要であり、その要点を理解して頂くこと。

(6) 運動器の疼痛に対する薬物、注射などの治療法を理解して頂くこと。

【到達目標（行動目標）SBOs】

(1) 脊椎脊髄疾患の身体診察法の習得

(2) 関節疾患の身体診察法の習得

(3) 骨折の診断、ギプスの固定法の習得、手術適応の判断の習得

(4) 関節注射や関節ブロックなどの手技の見学

【習得すべき基本手技】以下の基本手技の適応を決定し、実施し、習得する

(1) 脊椎脊髄疾患の診断

(2) 腱反射

(3) 運動障害や感覚障害検査

(4) 関節所見、画像診断

(5) 運動器疼痛に対する薬物治療、ブロック治療の適応と実際

(6) 骨折の画像診断

【習得すべき病態，疾患】

- (1) 頸椎症性脊髄症
- (2) 腰部脊柱管狭窄症
- (3) 腰椎椎間板ヘルニア
- (4) 変形性膝関節症
- (5) 膝半月板損傷
- (6) 四肢骨折

II.研修方法

1. オリエンテーション

研修開始日に指導医が行う。研修プログラムの具体的内容を説明し、研修目標、行動目標について確認する。

2. 外来研修

外来にて患者さんへの間診聴取から画像診断，身体的診断，治療方針の決定法を学ぶ

3. 手術研修

手術室にて手術法の実際を学ぶ

4. 病棟研修

病棟にて術前術後の注意点などを学ぶ，指導医とともに担当患者さんの診察を行う。

5. 講義，カンファレンス

- (1) 手術カンファレンス 毎週水曜日 7：20 図書室カンファレンスルーム
- (2) 講義 脊椎脊髄疾患 期間中一回
- (3) 講義 膝関節疾患 期間中一回
- (4) 講義 骨折 期間中一回

月間スケジュール

(2週間型)

第1週 脊椎脊髄疾患

月水金 手術室 火 外来，検査 木 外来，検査

第2週 関節疾患 外傷疾患

月水金 外来 火木 手術

(4週間型)

第1，2週 脊椎脊髄疾患

月水金 手術室 火 外来，検査 木 外来，検査

第3，4週 関節疾患 外傷疾患

月水金 外来 火木 手術

Ⅲ. 指導体制

1, 専任指導医とその役割

原田崇弘（医師） 3158

中尾和人（医師） 3043

担当患者について直接指導

2, 上級医とその役割

西森 誠（部長） 膝関節疾患の指導 3142

吉田友和（部長） 股関節疾患, 関節外傷の指導 3028

角西 寛（部長） 上肢疾患の指導 3141

泉文一郎（副部長） 脊椎脊髄疾患の指導 3030

大田 亮（副部長） 脊椎脊髄疾患の指導 3125

3, 全体の統括指導医

藤原 靖（主任部長） 3029 研修プログラム責任者

真鍋英喜（副院長） 3027 スーパーバイザー

Ⅳ. 評価

学生の評価を以下のように行う

指導医による学生の行動内容の評価 40

カンファレンスでのプレゼンテーション 30

学生用カルテの内容 30